

文章としてのまとまりを持たせるために「省略」がよく行われます。省略とは、文章の流れの中で、何を指しているかはっきりわかっている語を後に続く文では言わないことです。そうすることによって言葉の無駄がなくなり、また、文章としてまとまりが出ます。

また、前の文に出てきた言葉を関連する語で言い換えることがよくあります。これも文章にまとまりを持たせるための一つの手段です。

A 省略されやすい場合

1. 前の文に出てきて、後の文で繰り返しになるとき(省略された語が特定できる場合)

例・少子高齢化が取り上げられるようになって久しい。政策を立てる際にも(少子高齢化を)無視できない。(少子高齢化は)今や時代のキーワードなのである。

2. 前の文と後の文の主題(「～は」などで表される)が同じとき

例・この市はバスが住民の主な移動手段である。さらに(この市は)近隣の町や村からのバス路線も充実している。

・うちの子はM社に珍しい図鑑を送ってもらった。(うちの子は)自分で注文して楽しみに待っていたようだ。

3. 前の文に出てきた言葉を、「は」で受けるとき: 主題化

例・田中氏は1945年の生まれである。(1945年は)日本で戦争が終結した年である。

B 省略されない場合

1. 注目する行為の主体が前の文とは違うとき

例・M社がうちの子に珍しい図鑑を送ってくれた。うちの子は飛び上がって喜んだ。

2. すぐ前の文に出てくるのではなく、少し離れたときや、間に複数の言葉があつて、どの言葉の省略なのかわかりにくいとき

例・A社がB社に製品の部品を注文した。B社は(または、A社は)納入期日に間に合うかどうか心配だった。

3. 前の文に出てきた言葉で、後の文で主題になり、省略すると特定がしにくいとき

例・ここは「ミラノ」という店である。(ここは)昨年オープンしたイタリアンレストランである。イタリアンレストランはこの町に4店あるが、ここが一番雰囲気がいい。



4. 前の文脈で出てきた言葉と同じ言葉だが、指しているものが微妙に違うとき

例・事故に遭った人たちへの精神的ケアが改めて行われた。精神的ケアは今までも取り組まれてきたが、今回の(ケア)は今までとは別の方法によるものだと言う。
(今までの精神的ケア≠今回の精神的ケア)

5. 前の文が主体の動きを表す文で、次に続く文がその主体が何であるかを言う文のとき(逆の場合は省略できる。)

例・山田氏は先週、生物保護のための国際会議に出席して、日本の生物環境についてスピーチを行った。山田氏は日本の生物保護のトップリーダーである。

【比較】山田氏は日本の生物保護のトップリーダーである。先週、(山田氏は)生物保護のための国際会議に出席して、日本の生物環境についてスピーチを行った。

6. 間にいくつか文が入った後で、話題の中心を示す文が来るとき(省略しない方がわかりやすい。)

例・秋の虫が鳴く季節になった。(秋の虫は)夜になると別れを惜しむかのように激しく鳴く。オスが鳴いているのか。秋の虫はどのようにして季節を知るのだろう。

C 繰り返し・言い換え

1. 前に出てきたのと同じ語、またはその語の一部を繰り返す。

例・前橋市は町並みが整理されていて、文化施設も充実している。周囲の山々の景色も美しい。前橋市は県庁所在地として落ち着いた小都市と言えるが、交通がやや不便なのが難点だ。
・TAK研究所は炭酸ガスを有効利用しようというテーマに取り組もうとしている。研究所はすでに国の補助金を申請し、全国から協力企業を募っている。

2. 前に出てきた語を、関連のある別の言葉(類義語またはその語を含む広い概念の言葉)で言い換える。

例・うちの祖父にグラウンドゴルフに参加しませんかというお誘いが来た。このスポーツはゴルフと同じようにボールとクラブを使ってプレーするもので、お年寄りの間に普及しつつある。
・人類は鳥のように空を飛べないものかと長い間試行錯誤していた。念願がやがて実現した。



練習1 次の文章の下線の言葉を省略できる場合は()で囲みなさい。

- 昔、この村に不思議な老人が住んでいた。老人は^{むらびと}村人から^{はな}離れて一人で暮らしていた。
- この論文はデータがあまり新しくないので信頼性に欠ける。また、この論文は引用文献^{ぶんげん}も古い。
- この問題は渡辺さんではなく、山田さんに聞いたほうがいい。渡辺さんは専門外のことだからたぶんわからないだろう。
- 先月スウェーデンのストックホルムへ旅行に行った。ストックホルムは古い建物がたくさんあり、絵のような^{まち}町並みだった。いつかもう一度ストックホルムに行きたい。
- ホールで佐藤氏が新年のあいさつをしている。佐藤氏は先日この病院の^{りじちょう}理事長に^{しゅうにん}就任したやる^{まんまん}気満々の医師である。
- 不景気のため、^{たいよく}退職を^{よぎ}余儀なくされる人が増えている。不景気は、何が原因で、いつまで続くのだろうか。
- 桜^{さくら}といえば、現代の日本ではソメイヨシノという^{えど}江戸時代に^{かいほつ}開発された^{ひんしゅ}品種が^{だいりょうかく}代表格である。昔から桜は日本にあったのだが、それはヤマザクラという別の種類の桜のことである。
- もともと秋田県の湖にいた魚が^{やまなし}山梨県で見つかった。魚はもちろん泳いでいったわけではない。秋田県の湖には^{さんせい}酸性の^{なが}温泉水が^こ流れ込むので、卵を移したのである。

練習2 「a 医学」か「b 病気」か「c 看護」を _____ の上に書きなさい。

医学が未だ進歩せず、① _____ の原因がわからない時代にも薬草などを使った対症療法はあったし、その他に癒しの術としてさまざまなことが行われていました。(略)

このような人間の苦しみを和らげる行為として、単純ではあるが看護と呼ばれる行動が、家族や友人によってなされ、その行為が繰り返し子孫や部落住民にも伝えられてきたものと思われる。このような② _____ の行為は、人の苦しみを何とか和らげたいと願う、いとおしみの心から生じた人間の知恵と経験の産物であります。患者への共感と人をいとおしむ心(compassion)が、一つの業として技(ぎ)をつくったものと想像されます。これが苦しむ人を世話すること、すなわち③ _____ の技、すなわちアートと呼ばれてよいものです。

科学らしい④ _____ のなかった時代にも、ある人の世話のための心のこもった手当てがまず存在し、これにしだいに科学的知識と技術とがつけ加わって、⑤ _____ の体系がつけられました。したがって、⑥ _____ のもともとのその発端は、素朴な⑦ _____、あるいは素人による、または経験者に導かれた家庭看護であったといえましょう。

(日野原重明『医のアート、看護のアート』中央法規出版による)

まとめ 次の文章を読んで、文章全体の趣旨^{しゅし}を踏まえて、1 から 5 の中に入る最もよいものを1・2・3・4から一つ選びなさい。

父の仕事の関係で、転勤と転校の繰り返しで大きくなった。小学校だけで、宇都宮、東京、鹿児島、四国の高松と四回 1。場数を踏んでいるとはいえ、新しい学校へお目見えにゆく朝は、子供心に気が重かった。

「しっかりご飯を食べてゆけ、空きっ腹だと相手に呑まれるぞ」
朝の食卓で、大きなご飯茶碗を手に、父が演説をする。

「先に 2。みんなが頭を下げるのを見渡してから、ゆっくりと頭を下げなさい」
いじめられるかどうかは、この一瞬で決まるんだぞ、といいながら、朝刊を持った父がご不浄^{けず}に立ってゆく。祖母は、母を突ついて忍び笑いをしながら、

「お父さん、自分のこといってるよ」
「聞こえますよ、おばあちゃん」

3-a と一緒に、3-b も新しく支店長として乗り込むのである。

母に連れられて学校へゆき、渡り廊下を通して教室へ歩いてゆく。母にはスリッパが出されるが、4 靴下のまま廊下を歩く。これがいやだった。

「上ばきを持ってくればよかったな」
と思いながら、壁にはり出された図画や習字を横目で見て、字がうまいと少しおびえたりして教室に入る。教壇の横に立って先生の紹介を受け、

「礼！」
という号令で頭を下げあう。

下げてから 5 を思い出すのだが、これは役に立ったためしかなかった。

(向田邦子「父の詫び状」文藝春秋 刊)

(注) 不浄^{ふじよう}: トイレ

- | | | | | |
|----------------------------|-------------------------|-----------|--------------|-----------|
| <input type="checkbox"/> 1 | 1 変化した | 2 変化している | 3 変えている | 4 変わっている |
| <input type="checkbox"/> 2 | 1 お辞儀 ^{じぎ} をしる | 2 お辞儀をするな | 3 頭を上げるな | 4 頭を上げる |
| <input type="checkbox"/> 3 | 1 a 子供たち/b 父 | 2 a 母/b 父 | 3 a 父/b 子供たち | 4 a 父/b 母 |
| <input type="checkbox"/> 4 | 1 母は | 2 自分たちは | 3 子どもは | 4 みんなは |
| <input type="checkbox"/> 5 | 1 父のこと | 2 父の演説 | 3 祖母の話 | 4 祖母のこと |